

報告 2

The Impact of FTAs on Procurement Behavior of Japanese Firms' Overseas Affiliates

加藤篤行（金沢大学人間社会研究域）

日本の産業はグローバル市場における競争力を高めるために、数十年間にわたって高度な地域サプライチェーンネットワークを構築し海外生産を拡大してきた。日本の貿易政策の重要な柱の一つである自由貿易協定（FTA）の影響についても、こうした国内・対外産業構造の変化に関する議論の中で今日まで様々に議論が行われてきたが、この議論においては日本企業のアジア地域化やグローバル化の流れの中での FTA による貿易の拡大について二つの相反する見解が存在している。すなわち、政策立案者や研究者の中には FTA が日本の産業空洞化を促進することを危惧している人々がいる一方で、FTA によってサプライチェーンにおける国内産業の役割が強まることで産業空洞化を阻止すると考えている人々もいる。この議論に関して、本稿では企業レベルデータを用いて日系海外現地法人の調達行動に与える影響を調べることによって、FTA がサプライチェーンに与える影響について考察を行った。本研究の結果は、FTA が日系現地法人の調達に関して日本からの輸入、特に親会社からの輸入シェアを高めることに貢献しており、そのことは、FTA がサプライチェーンにおける国内産業の位相を高め、空洞化を阻止または緩和する可能性があるということを示唆している。